

ブラジル
アマパ・イニシアティブ
現地からのお便り

2017年5月
コンサベーション・インターナショナル

私達はブラジルで、「“空気をはぐくむ森”プロジェクト」を通じて、アマパ国有林とアマパ州有林という2つの保護地域の保全に取り組んでいます。自然を守ることで、人々の幸せに欠かかせない自然の恵みが提供されて、保護地域の中や外に住む人々の生活が改善されるよう務めています。2017年1~3月の四半期の活動をご報告しましょう。

地域の広報ネットワークの支援と保護地域の管理

アマパ国有林での広報キャンペーン

1月20日、アマパ国有林とアマパ州有林に位置するアラグアリ川の上流とファルシノ川の河口に住む人々を対象に、保護地域について知ってもらう取り組みをしました。アマパ国有林での調査活動とアマパ州立大学が手法を開発した絶滅の危機にひんするカメの一種のモニタリングについて話し合うコミュニティ会合の場を活用して実施し、コミュニティから27人が参加しました。



図1：アラグアリ川の上流とファルシノ川の河口についての
コミュニティ会合の参加者たち（写真：Bom Sucesso Association/ Elma Gemaque）

ビデオ、小冊子、アマパ国有林管理計画のサマリーなどを使い、保護地域に関する国の制度、保護地域の管理への社会の関わり、アマパ国有林の管理計画の中で想定される管理プログラムなどについて話し合いました。参加者は、これらの保護地域に住み、そこで取れる天然資源を使って生活している住民であり、また地域の協議会のメンバーでもあります。彼らの理解を深めるこのような活動は、アマパ国有林とアマパ州有林を参加型で管理していくのに役立ちます。

多様な目的を満たす森林の管理とアグロエコロジープログラムの支援

経済活動は地域の社会・経済的な開発にとって重要です。経済活動が持続可能性の原則に従えば、経済活動自体が生態系のバランスを維持し、人々の幸せを生み出すための戦略となります。

「コミュニティによるエコツーリズム」の研修

2月から3月にかけてアマパ州職業教育センター（CEPA）と一緒に、アマパ国有林とアマパ州有林で、3つのモジュールからなる「コミュニティによるエコツーリズム」の研修を行いました。4月と5月に行う残り2回の研修をもって、計5つのモジュールからなる研修が終了します。ボムスセソ協会から20人が研修に参加しています。



図2：アマパ国有林とアマパ州有林で行われた「コミュニティによるエコツーリズム」研修の参加者たち（写真：Bom Sucesso Association / Arlete Pantoja）

この研修の大きな目的は、2つの保護地域の管理計画に組み込まれると想定されるアマパ国有林とアマパ州有林の公共利用を実践していけるようにすることです。6月には、同じ目的で、「ボートの操縦」についての新たなコースを計画しています。アマパ州のブラジル海軍と協力して進めていきます。

木材の切り出しについての研修（第2フェーズ）

3月27日から31日にかけて、アマパ州森林研究所（IEF）が主体となり、木材の切り出しについての第2回目の研修を行いました。セラドナビオ保護地域、アマパ国有林、アマパ州有林において持続可能な木材生産を進めている13人のコミュニティメンバーが参加しました。

この研修は、コミュニティの人々が持続可能な森林管理の様々な段階で必要となる能力を身につけることに貢献することを目指しています。4月に第3フェーズの研修を行う予定です。



図3：木材の切り出しの研修の参加者たち（写真：IEF / Inácio Barreto）

終わりに

このプロジェクトでは、自然と深くつながって生活する人々の幸せを高めることを目的として、アマパ州で見本となるような取り組みを強化しています。そのための戦略として、持続可能なアグロエコロジーを活用した経済活動が選択されること、木材及び非木材林産物がよりよく管理されるようになること、そしてコミュニティの社会的な資本を高めることを推進し、これらの課題が広く認知されるよう取り組んでいます。